

7月の県内景況は、収益状況がやや回復。 その他は5ヶ月連続で減少が続く。

情報連絡員による平成26年7月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は20.3%（前月比-3.0）となっており、「横這い」は23.7%（同-6.3）、「低調」とするところが56.0%（同+9.3）、業界全体の「景況感DI」は-35.6（同-12.3）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「販売価格」「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の項目において前月と比較して減少しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、食料品製造業、木材木製品製造業、卸売業、商店街、運輸業は「大雨」または「雨」、鉄工機械製造業、小売業、サービス業は「薄曇」または「曇り」となっています。

◇来月の見通しは、やや悪化、悪化の見込みは、23.8%（前月比+3.8）と増加しております。好転、やや好転の見込みとの回答が22.0%（前月比+0.4）と増加しております（好転の回答2件、やや好転の回答11件）（製造業5、非製造業8）。また、変わらないが、54.2%（前月比-4.1）と減少しております。

平成26年7月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率98.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	16.67	-100.00	0.00	66.67	16.67	-66.67	-33.33	-33.33	16.67	-33.33	-33.33	-83.33
繊維製品製造	66.67	66.67	0.00	-33.33	33.33	33.33	33.33	33.33	-33.33	-33.33	0.00	33.33
木材木製品製造	-50.00	-100.00	-50.00	-50.00	-50.00	-100.00	-50.00	-50.00	0.00	25.00	-75.00	-100.00
鉄工機械製造	0.00	-40.00	0.00	20.00	20.00	-20.00	-20.00	-20.00	0.00	0.00	-20.00	0.00
その他の製造	0.00	-28.57	0.00	28.57	-14.29	-14.29	-28.57	-28.57	-14.29	-14.29	0.00	14.29
卸売業	25.00	0.00	-75.00	-75.00	-50.00	-50.00	-50.00	-50.00	0.00	-25.00	-75.00	-75.00
小売業	22.22	-11.11	-11.11	0.00	-11.11	0.00	-11.11	-11.11	-11.11	-22.22	-11.11	-11.11
商店街	33.33	-33.33	-33.33	-16.67	0.00	-50.00	0.00	-33.33	-16.67	-16.67	-16.67	-50.00
サービス業	14.29	-42.86	28.57	42.86	28.57	-14.29	-14.29	-28.57	0.00	14.29	14.29	-14.29
建設業	60.00	80.00	0.00	40.00	20.00	40.00	20.00	40.00	20.00	20.00	20.00	40.00
運輸業	0.00	-33.33	0.00	33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-100.00	-33.33	-66.67

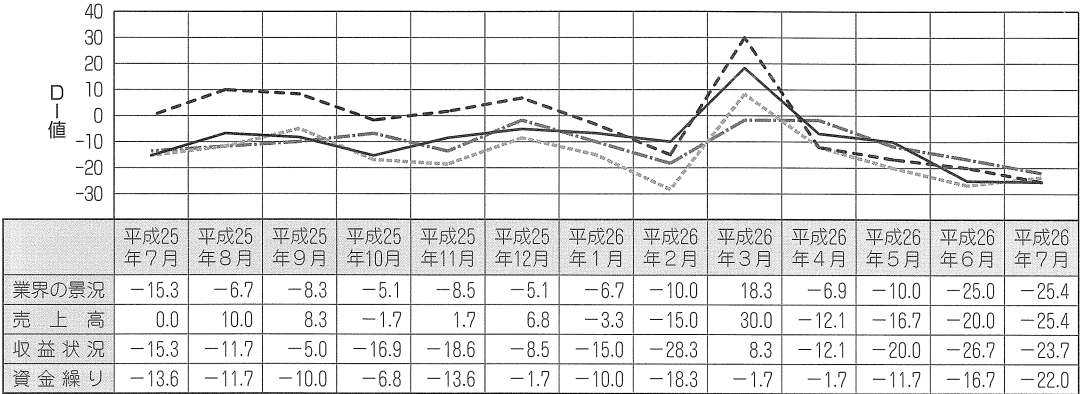
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすくもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成25年7月~平成26年7月）



食料品製造業

<パン>

暑さの影響がでている。

<味噌醤油>

原料の国産大豆は高止まりで、相変わらず高値で推移している。加工食品表示基準（案）が消費者庁から出され、固有記号の廃止案もあり、苦慮している。風評被害は相変わらず続いている。

<菓子>

猛暑日が続く菓子の購買意欲が薄れ、厳しい状況。原材料は輸入コストが上がり、上昇気味で、対応に苦慮している。

<乾麺>

7月前半は気温が上がらず、業界不振。後半は暑さが戻ったのだが、通期での前年割れは妨げられない。投げ売りも見られる。清鶴麺250g（標準小売150円）が税込70円の値をつける。

<酒造>

出荷量は前年比悪い（吟醸・生酒は前年比103～105%）。日本酒の一番弱い時期のため、秋に向けてPR活動が中心となっている。

<食品団体>

不安定な天気が続く、なかなか売上が上がらなかったが、後半は暑い日が続いて季節商品も動くようになった。ただ、原油価格は昨年よりも高い水準で推移している。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物の生産の最盛期になり人手不足が大きな問題になってくることを懸念している。

<縫製品>

夏物から秋冬物への移行が順調に進んだため、生産も多少増加した。しかし販売価格等はそのままなので、なかなか収益の上昇までにはいたっていない。受注の増加と同様に販売価格も上昇することに期待する。

木材・木製品製造業

<製材業>

梅雨の時期で丸太の出材が減少していることから、引き合いは堅調で売れ残りはみられない。しかし製品需要は引き続き低迷していることから値下げしても売れる状況にないので製材工場にとって厳しい環境にある。秋需がでてくる9月以降の相場に期待したい。

<外材輸入>

製材品の需要は依然として回復せず低迷したままとなっている。各組合員企業は生産調整等で対応しているが、市況は弱気配で推移しており厳しい状況が続いている。

紙・紙加工品製造業

<紙器・段ボール>

景気がようやく上向いたと報じられる中、消費税8%の増税は心配ではあったが、なんとか想定内での推移となった。しかしながら我々中小零細企業にとっては、円安による原材料高がなかなか価格に転嫁できず苦しい状況が続くものと予想される。こうした中、組合員の廃業・転業の傾向にあり、組合運営は今まで

に経験したことがない厳しい状況が続くものと予想される。

印刷業

<印刷>

消費税増税後の落ち込みがあり、6月以降は前年並みに戻つつあるところだが、7月の結果さらには先行きの見通し等は厳しい状況が感じられる。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

客足が伸びなかった。原因はわからない。

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上高の前月比 約4%の増
2. 当月売上高の昨年同月比 約13%の増
3. 今年度累計の昨年対比 約8%の増
4. 原因・状況 県北地区の除染工事と公共工事への出荷で増となった。

<生コン>

平成26年7月の組合員生コン出荷数量は、172,859㎥と対前年同月比7.5%の増。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比33.3%の増、官公需が6.5%の減であった。

■民需の動向

対前年同月比 33.3%の増

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 50.9%の増

工場新・増築工事、物流倉庫増築工事等

<県中地区> 21.1%の増

南東北病院管理等建築工事、物流センター、マンション建設工事等

<白河地区> 7.7%の増

新白河信金ビル建築工事、太陽光メガソーラー建設工事等

<相双地区> 74.5%の増

原発保安対策工事、広野火発消波ブロック工事、常磐道浪江地区舗装工事等

<会津地区> 82.8%の増

老人福祉施設工事、会津中央病院増築工事、ウィンドファーム建設工事等

②対前年同月比減少地区

<いわき地区> 5.7%の減

県漁連冷凍冷蔵施設建設工事等

■官公需の動向

対前年同月比 6.5%の減

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 22.4%の増

福大図書館増築工事、梁川小改築工事、国見町庁舎建設工事等

<県中地区> 19.8%の増

郡山市中央公民館改築工事、環境創造センターA棟新築工事等

②対前年同月比減少地区

<白河地区> 1.7%の減

白河中央中学校建設工事、白河総合運動公園整備工事等

<いわき地区> 14.7%の減

小名浜港追悼地区岸壁復旧、復興公営住宅建設工事等

<相双地区> 16.3%の減

海岸保全施設整備工事、植葉等中学校建築工事等

<会津地区> 2.7%の減

喜多方市役所建築工事、西会津小建設工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高、収益状況とも前月比でもほぼ横ばい状況である。見積もり引き合いを見ても、前月に比べ減少傾向にある。今後も引き続き、厳しい状況は変わらない模様である。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

業種によるバラツキはあるが、消費増税から4カ月が経過し、売上が持ち直してきている。7月期の売上が前年並みまで回復した企業も相応に見受けられる。復興需要は今も続いているが、ややかげりも見え始めている。今後の見通しとしては、良きにつけ悪しきにつけ大きな変化はないのではないかとみている。

<再生資源>

7月は梅雨とはいえ暑い日が続く、雨もゲリラ豪雨のような降り方で、以前の梅雨とは近年は様相が違ってきている。中元商戦も関東圏に倣い福島においても7月初旬から活発で、若干上向いてきている。今後、さらに暑さが増すと夏物の売れ行き増で、再生資源業界も活発化してくることを期待している。

<青果>

消費税増税の影響が徐々に顕著となってきており、生鮮食品購入もより安価なものへとシフトしている。また、原発関連報道による消費者の反応は素早く、風評と増税の相乗作用で価格が低迷している。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

7月は前月より売上・来店客数ともに伸びているが、前年と比較すると売上・来店客数ともにダウンとなった。飲食関係は好調で、前月比売上・客数ともに2ケタの伸びとなった。前年比でも100%超えの実績。猛烈な暑さや豪雨等の異常気象で消費者が家から出ない現象と、まだまだ先行き不安からの消費活動の低迷が見られる。前年度売れていたお盆用品が、今年売上が半減している。8月はお盆の帰省客でにぎわいを期待したいところ。

<石油>

7月石油小売価格は、一段と上昇し、消費者の買い控えによる売上減少が顕著化している。元売りによる仕切上昇は、一段落したものの、依然として高水準であり、行楽シーズンの影響は避けられない状況となっている。

<青果>

梅雨・豪雨の影響で単価が上昇し、品薄になるかと思われたがそれほど影響がなかった。時期的に家庭菜園が本格化してきたため、小売店の売上が伸びず低迷

した。気温の上昇とともに野菜のいたみも早く、ロスをいかに出さずに販売するか苦労している。納入業者においては単価は低いため、前年と同じ量を取り扱っても売上が減少しているようだ。8月のお盆と桃の販売に期待したい。

<電機>

猛暑が戻り、エアコンの動きが良くなってきた。若干エアコンの品不足があるが、なんとか乗り切れそうだ。地域店全体に活気がある。

商店街

<福島市>

イベントなどによる賑わいはあったものの、各個店における集客には結びつかず。昼も夜も、静けさを感じる一ヶ月だった。ボーナス後には、若干持ち直した感があり、これから夏本番を迎え、売上増・集客増を期待したいところ。

<郡山市>

7月は久しぶりにわずかではあるが、前年より増加になった。増税の影響がなくなったとはまだ言えないが、明るい兆しではある。今後の見通しはまだ見えないが、8月には商店街でイベントが3つあるので、ここで何とか回復できればと願う。

<南相馬市>

7月15日より地域商店街活性化事業が開始され、12月まで約半年間実施される。「元気発信栄町」をテーマとして、いろいろなイベントを行う。お中元、お盆の需要期で、タイムリーなスタートとなった。

<会津若松市>

夏物セールに入り、少しは動きがあった。地域ごとの各イベントがあり、にぎわいがあった。

<いわき市>

セールが本格的にスタートしても、ファッション関連を中心に前年をクリアするのは厳しい様子。不安定な天候も続き苦しいスタート。後半、暑い天気が続いて夏物の消化も進んだが、暑すぎて商店街にお客様が来られない悪循環。結果的には、物販は厳しい7月だった。飲食店は落ち着いたとは言え、ボーナス支給月で好調。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

夏休みシーズンなので、震災後はじめて夏休み宿泊企画「源泉探訪と地熱エネルギー体験」を開始した。小学生向けで実施するも小学生の参加が未だ非常に少ない。夏休みになると県外へ流出するのでは、本当の福島復興といえるのであろうか。

<理容業>

7月は12月について忙しい月である。前半は暑い日が続く夏向きのメニューも好調で出だしはよかったが、中盤で雨続きの日があって中だるみがあった。後半の25日すぎに猛暑日が続く、どの店も忙しかったようだ。夏休みで子供客も増えたようで少しだが活気がでてきた。

<廃棄物収集運搬業>

災害関連事業等も一部を残して終了した。売上は前年度の1/3くらい。新規の事業立ち上げも行っているが、人が集まらない状況が見られる。現実にはない

わけではなく、他地区の除染業務や復旧工事にとられているようだ。短期的な仕事の給与等が高いために流れている。安定した雇用をという県や行政の思いとはなかなかマッチングしないのが現状。

建設業

<建設業>

(県一円)

復興の加速化と復興予算の繰越問題などから、発注金額・件数は増加傾向にある。

(県南地区)

除染業務が進捗し新たな受注も増加して、売上の大半が除染関連となっている。土木工事は減少したままだが、建築工事は増加している。除染用フレコンバック(1種)が不足しており、価格上昇の見込みである。

<管工事>

前月比で給水装置設備申請が減少、排水設備申請は増加。前年同月累計対比でも給水装置設備申請が減少し排水設備申請は増加している。

<専門工事>

資材高騰・人員不足・消費税増税という要因がありながら、請負価格の上昇速度がそれに追いついていない

状態にある。現場として物理的に不可能なことを、机上の論理で数値だけを並べられても何ともしようがない。いい加減「仕方がない」という連鎖を下に付け回すのではなく、上に突き返す必要があるのではないかと。今年は冷夏という予想も覆り、9月まで猛暑が続くことが予想されている。無理のない安全を謳うのであれば、それに必要な現実の整備も必要だと考える。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

トラック運送業界は、燃料費高騰や高速料金の負担増等の悪要因が多く、自社努力だけでは収益確保が厳しくなっている。したがって、運賃引き上げ交渉を積極的に実施していかなければならない状況となってきている。

(県中地区)

4月から高速道路の割引制度が変更になり、各社ともに利用料金が10%程度上昇している。

<ハイヤータクシー>

福島競馬開催期間等であったにも関わらず、動きが低調であった。

県政ピックアップ

2014. 9

ビジネスの悩み、なんでもご相談ください!!

中小企業・小規模事業者のための経営相談所 福島県よろず支援拠点のご案内

福島県よろず支援拠点は、中小企業・小規模事業者の皆さんの様々なお悩みにこたえる相談窓口です。売上・販路拡大、経営改善、創業・起業、雇用・労務、海外展開、事業承継、事業再生、地域活性化など多様な経営課題に対し、地域の支援機関と連携しながら、サポートしてまいります。

よろず支援拠点のサポート

- 1 総合的・先進的アドバイス
中小企業、小規模事業者の成長を支援するため、売上・販路拡大、経営改善、創業など様々な経営課題を分析し、解決策を一緒に考え、課題の解決を目指します。商工会議所、商工会、中央会など他の支援機関と連携しフォローアップも行います。
- 2 支援チーム等編成支援
悩み・課題に応じて、様々な分野の専門家と支援チームを編成し、サポートします。
- 3 ワンストップサービス
どこに相談したらいいかわからない、中小企業、小規模事業者のみなさんの相談窓口として広く相談に応じ、相談内容に応じて適切な支援が受けられる機関へ橋渡しします。

福島県よろず支援拠点は課題解決型のビジネスコンサルティングを目指します!

まずはお電話ください! ご相談は何回でも無料です。

Tel : 024-525-4064

〒960-8053 福島市三河南町1-20 コラッセふくしま2F (福島県産業振興センター)

受付時間: 月~金(祝祭日を除く) 9:00~17:00 (12:00~13:00を除く)

E-Mail、FAXでも受け付けています。

E-Mail: yorozu@f-open.or.jp FAX: 024-525-4065